

村山史世（地域環境政策） 坂西梓里（社会連携型PBL）
Jonathan Lynch（International Communication）

研究の背景

私たちはSDGsの自分事化の研究と地域課題の解決を志向した学びの社会実装を行ってきました。具体的には、SDGsグリーンマップの開発や相模川での親子向け環境学習、相模原市緑区青根の水田を拠点とした生物多様性の把握と環境まちづくり、などです。

これまでの実績に基づいて、私たちはSDGsを活用しながら市民や行政の地域課題に取り組む研究+教育・学習+社会実装の総合的活動である「サイエンス・ショップ」を行います。

※「サイエンス」は学問一般、「ショップ」は工房を意味します。

アプローチ

サイエンス・ショップでは、クライアントである市民や行政と、大学・学生が対等な立場で、それぞれの主体性を尊重しながら研究・実践を行います。クライアントも積極的に研究・実践に参加する「参加型の研究」と「研究成果の公開・共有」を目指します。

市民や行政との情報交換や交流、地域課題の把握を目的として、SDGsに関連したコミュニティ・カフェやミニFM放送の企画・実施を学生主体で行います。

期待される結果

- ・ジェネラリストとして重要となる広い視野と総合的な思考を獲得できます。
- ・SDGsを通して地域課題を見ることで、課題の複雑な構造を把握し、解決のための方策を構想することができます。
- ・大学外の市民や行政など多様な人々とのネットワークを獲得できます。
- ・研究成果を社会と共有できます。

現状とこれから

- ・青根の水路の生態系把握と活用プロジェクト、SDGsグリーンマップを活用した座間市第2次環境基本計画策定の市民ワークショップ支援、（株）リコーと連携した自然再生エネルギーワークショップ、町田市役所と連携した公園の管理の在り方検討プロジェクト、FC町田ゼルビアと連携した環境やカーボンニュートラル啓発・実践プロジェクトなど、現在進行中のプロジェクトがあります。
- ・学生のみなさんからの提案も歓迎します。

